

定数削減の住民投票不成立、投票率50%届かず 山口・山陽小野田市

2013.4.7

山口県山陽小野田市で7日、現行24の議員定数を次回市議選から20以下に削減することの是非を問う住民投票が実施された。だが投票率は45・53%で、市の条例が成立条件と規定する50%に届かず、開票されなかった。市によると、全国の自治体で定数削減をめぐる住民投票が行われたのは初めて。

任期満了に伴う市長選も実施され、投票用紙は別々に配布された。住民投票の資格者は事前登録した永住外国人を含む約5万3千人。法的拘束力はないが、条例では「市長や議会は結果を尊重しなければならない」と規定されている。

市民団体「ふるさとを考える会」が昨年5月、定数を20へと削減する条例改正を求めて議長に請願を提出。10月にも議会への直接請求に踏み切ったが実現せず、住民投票実施に必要な数を上回る1万人以上の署名を集めた。

ただ別の市民団体は「定数問題に住民投票はなじまない」と主張。成立を阻むため、市長選のみ投票し、住民投票の用紙を受け取らないよう呼び掛けてきた。